

I 福山市

ミッション

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン

各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力
・「オール新市」を掲げる中で、地域の良さの発信やボランティアの取組など、もっと地域を好きになる取組を進めてほしい。 ・HP などでの出前授業の取組（キャリア教育の取組）は興味深く、今後も継続して児童生徒にたくさん学んでいただきたい。 ・学校に登校できない子供たちにも目を向け、そこへの取組をもっと発信した方がよい。（知らない人が多い）	・全国学力・学習状況調査等をはじめとした学力調査を踏まえ、基礎的・基本的な内容の定着に重点を置く必要がある。 ・キャリア教育の実践を通じ、校区で育てたい資質・能力を意識しながら様々な活動に取り組むことができており、4月当初から12月末で、肯定的評価をする児童生徒が増えている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 ・自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 ・地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々な取り組んでいく。

III 自 校

ミッション				
自分の夢の実現に向けてたくましく生きていく生徒、次代の新市や日本、世界を担う生徒を育成して、新市町の皆さんから応援される学校づくりを推し進める。				
学校教育目標				
達成感・感動・郷土愛				
現 状				
<生徒> - 校区でつきたい資質・能力の向上へ向けて努力できている。 「振り返りをもとに改善策を考えている」生徒 80.7%（4 月）⇒83.0%（12 月） 「日々の学習活動は、自分の夢や目標・生き方を考えることに繋がっている」生徒 84%（4 月）⇒86%（12 月） 「自分の思いや考えを、相手や場に応じて分かりやすく説明している」生徒 75%（4 月）⇒78%（12 月） 「自分が考える、選ぶ、決めることを大切にしている」生徒 89%（4 月・12 月共に） - 全国学力・学習状況調査の国語・数学の正答率は全国平均に達していない。国語の文法や表現技法などの「知識」、数学の「数と式」など、基礎的・基本的内容の定着が不十分。 <授業> - キャリア教育実践の手引きに基づき、出前授業やキャリア・パスポートの活用等により、生徒の資質・能力を高める取組を学年会・教科会を中心に仕組んでいる。 - 基礎的・基本的な内容の定着及び主体的で対話的な学習へむけて、授業改善に取り組んでいる。 ①朝学習及び定期試験週間、部活動休養日等の放課後等を活用した学習会の実施 ②ことばや数の概念を獲得していくための学習課題の設定 「ことばや数、概念を獲得していくためのパフォーマンス課題を設定する」教員73.9%。				
めざす子ども像	育成する力 資質・能力	チャレンジ& チェンジする力	自己理解力	自己表現力
	1 年	活動をふり返り、改善策を 考えることができる。	自分の将来の夢や目標を持 つ。	自分の思いや考えを多様な 表現方法を用いて説明するこ とができる。
めざす授業の姿	2・3 年	目標達成に向けて、より良 い方法を考えて取り組むこと ができる。 達成状況を振り返り、改善 策を考えることができる。	自分の将来の夢や目標、生 き方を考えることができる。	自分の思いや考えを、相手 や場に応じて、分かりやすく 説明することができる。
	研究	テーマ 内容等	教科の本質	
めざす授業の姿	「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切にしたい学び			
	・ファシリテーターとして、生徒一人一人の学びの姿から学びを進める。 ・教師が教えること、生徒が決めることのバランスをはかる。			
めざす授業の姿	「学ぶ意義を感じられる学びづくり or 子ども主体の学びづくり」			
	・自ら「学びたいこと」「学び方」などを決定し、解決に向けて方法を探り、考える。 ・他者との対話することで考えを評価したり、深めたりして互いの考えを活かす。 ・学習目標と達成状況を比較し、改善方策を考える。 ・課題について深め、「分かったこと」「疑問に思ったこと」などを説明する。 ・企業の出前授業や地域との関わりを通じ、学習と実社会の繋がりを考える。			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立新市中央中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							目標に係る 取組状況	力 評 価	達成 評価	改善方策	目標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	力 評 価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	課題を発見し、自ら考え、学び力を育成する。	★	新規	「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切に、主体的に学ぶ生徒を育成する。	・振り返りシート、キャリア・パスポート等を活用し、目標設定や改善策を考えさせる。 ・教材研究を通して、本質的な問いを意識した授業を作り、学力定着を図る。	・「振り返りをもとに改善策を考えている」生徒85%以上（現状83.0%） ・『「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切にしている」生徒80%以上（現状値なし）	・「振り返りをもとに改善策を考えている」生徒82.0% ・『「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切にしている」生徒86.2% □評価についての教科会や、教務部研修、相互参観授業を中心に取組んできた。	3	3	・キャリア・パスポートの活用や、相互参観授業での授業改善のポイントとして、指標の項目を教職員に意識させる。 ・全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、教科会や学年で分析結果から考えた取組を実践していく。	・「振り返りをもとに改善策を考えている」生徒78.3% ・『「そもそも」「なぜ」「どうして」を大切にしている」生徒83.5% □各学力調査の結果やアンケート結果をもとに、各教科・学年で生徒のつまずきを明らかにし、具体的な改善の手立てを協議した。	3	3	3	・キャリア教育の取組を引き継ぎ、刷新する。 ・メンター制を実施し、様々な業務において、情報・実践を交流し、スキルアップにつなげる。
2	子どもが「学ぶ意義」を感じられる教育活動を実践する。		継続	将来の夢や目標の実現へ向けて、自己理解を深め、自分の思いや考えを分かりやすく説明できる子どもを育成する。	・実社会とのつながりを意識した単元開発や地域・企業による出前授業を行う。 ・授業や行事等を中心に、表現活動に挑戦する機会を設定する。	・「日々の学習活動は、自分の夢や目標・生き方を考えることに繋がっている」生徒90%以上（現状85.7%） ・「自分の思いや考えを、相手や場に応じて分かりやすく説明している」生徒80%以上（現状77.9%）	・「日々の学習活動は、自分の夢や目標・生き方を考えることに繋がっている」91.1% ・「自分の思いや考えを、相手や場に応じて分かりやすく説明している」生徒83.8% □単元に位置付けた出前授業の実施や地域・企業と連携した探究学習（発表）・面接活動に取り組んできた。	3	3	・出前授業だけでなく、該当単元の途中やまとめの学習課題に表現活動を適確に組み込んでいく。 ・総合的な学習の時間を中心に、他者に対する表現活動の経験を増やす。また、表現活動を行う際の留意点について、理解を深めることができる指導を行う。	・「日々の学習活動は、自分の夢や目標・生き方を考えることに繋がっている」90.3% ・「自分の思いや考えを、相手や場に応じて分かりやすく説明している」生徒85.6% □出前授業や探究学習を実施した結果、学習活動が夢や生き方につながると捉えることができた。表現活動に対する自己評価の向上が見られた。	4	4	4	・出前授業と探究学習の効果的な実施へ向け、カリキュラムマップと照らし合わせながら、検討を進める。 ・表現活動の指導を引き続き授業改善の柱に入れる。
2	自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で「考える、選ぶ、決める」力を育成する。	★	継続	教職員が生徒一人一人の学びの姿を大切にした教育活動を実践する。	・生徒が方法を決めて課題解決に取り組んだり、議論したりするような場面を設定する。 ・週1回「学びプロジェクト委員会」で生徒及び保護者の困り感を把握し、取組方針を決定する。	・「自分が考える、選ぶ、決めることを大切にしている」生徒90%以上（現状89.6%） ・新規長期欠席者の出現率を減少（一昨年3.7%、昨年0.8%）	・「自分が考える、選ぶ、決めることを大切にしている」生徒93.6% ・新規長期欠席者の出現率0.2% □学びプロジェクトを中心に、生徒・保護者の困り感を共有し、取組を考え実行した。	3	3	・行事等の自ら決定する場面を大切にするために、キャリア・パスポートを引き続き効果的に活用する。 ・週1回の学びプロジェクトで生徒の状況交流を続け、効果的な支援を行う。	・「自分が考える、選ぶ、決めることを大切にしている」生徒92.6% ・新規長期欠席者の出現率0.6% □各授業、行事、部活動の取組を通して、自己決定させる場面を積極的に設定した。学びプロジェクトを中心とした、生徒・保護者の困り感の共有、取組の検討・実施を行った。	3	3	3	・生徒の困り感を丁寧に把握するため、学びプロジェクトを引き続き行う。また、面談がより効果的になるよう、教職員の働き取りのスキルについて研修する。
1	生徒及び教職員が元気・笑顔で生活・勤務できる環境を充実する。		新規	生徒及び教職員が主体的に目標設定や改善策を考え、充実感を持って生活する。	・新市中央中学校区で週1回「メディアコントロールDay」を設定し、生活習慣を見直す。 ・経営委員会等で業務改善等の協議を行うとともに自身の資質向上に係る目標・方策を設定し、取り組む。	・「他の日と比較しSNS等の使用時間が20%減である」生徒70%以上（現状値なし） ・「日々の仕事の中でやりがいや充実感（達成感）を得られている」教職員90%以上（現状95.8%）	・「他の日と比較しSNS等の使用時間が20%減である」生徒52.3% ・「日々の仕事の中でやりがいや充実感（達成感）を得られている」教職員96.4% □経営委員会を中心に、生徒の視点に立ち、学年の実態に応じたHRや学年独自の取組を行った。	3	3	・継続的な取り組みとして、保健委員会生徒が週1回メディアコントロール日の声掛けや達成度のチェックを行い、生徒たちの意識を高める。 ・引き続き、経営委員会や学年会を通じ、現行の取組を評価・検討し、改善を図っていく。	・「他の日と比較しSNS等の使用時間が20%減である」生徒76.7% ・「日々の仕事の中でやりがいや充実感（達成感）を得られている」教職員96.4% □経営委員会を中心に、業務内容の継続と見直しについて、評価と検討を行った。	3	3	4	・中学校区での強化週間の設定や保健委員会の取組強化を行う。 ・引き続き経営委員会等で業務改善の協議を行う。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。